Strix 12：243-247（1993）

南鳥島における鳥類の観察記録

河原恭一[1]

はじめに

南鳥島は，東京の南東およそ2000kmの海上，北緯24.3°東経154.0°に位置する珊瑚礁の孤島で，周囲がおよそ6km，海抜が高いところでも10m程度の小さな島である．島は，モンパノキやパパイヤ，ココヤシなどの樹林に覆われている部分が多く，その周辺にはイネ科の植物による草原状の部分があり，海岸付近にはグンバイヒルガオが多くみられる．小さな池はあるが，河川はない．また，島ではアカオネッタイチョウや数種のアジサシ類が繁殖する（日本鳥学会 1974，清棲 1975）．

現在，一般住民は住んでおらず，海上自衛隊，海上保安庁，気象庁の計約40名の隊員および職員が常駐しているほかは，工事関係者などが不定期に滞在するのみである．

筆者は，1992年11月18日から1993年2月18日までの約3か月間，気象庁南鳥島気象観測所に高層気象観測班として派遣される機会をえて，同島で越冬する種やそのあいだに飛来した種を観察できたので，それらの記録について報告する．

観察記録

記録されたのは全部で18種である（表1）．以下に，それぞれの種についての観察状況などを簡単にのべる．

コアホウドリ

1月と2月に各1回，1羽ずつ観察された．いずれも海上を飛んでいた．

クロアシアホウドリ

1月と2月に各1回，1羽ずつ観察された．1月28日に観察された1羽は，ほとんどはばたかずに海岸ぞいに低く飛んできて，筆者の頭上数mのところで旋回し，その後しばらくのあいだ島の上空を飛んでいた．ほかの1羽は海上を飛んでいた．

アカオネッタイチョウ

1月18日にこの年はじめてみられ，2月6日まで頻繁に観察された．午前10～12時頃に海岸付近で観察されることが多く，朝のうちや午後は沖合いにいるためか，姿をみることはごくまれであった．しかし，夜間には島上空で声（「ウェー」という濁った声）がしばしば聞かれた．海岸付近で観察されたときは3～6羽でいることが多く，円を描いたり短い停空飛翔を交えたりして，頻繁に鳴きながら飛んでいた．好奇心が強いのか，筆者がカメラやフィールドスコープを構えていると頭上数mまで近づいてきて，こちらを偵察した．

カツオドリ

2月15日と17日に1羽観察された．いずれも遠い海上を飛んでいた．

1993年12月19日受理

1．〒087 北海道根室市幸町1-3幸町宿舎6-2

表1．南鳥島で観察された鳥類（1992年11月18日～1993年2月18日）．
Table 1．The bird species observed on Minamitori-shima (18 Nov. 1992 - 18 Feb. 1993).

和　名 Japanese name	学　名 Scientific name	観察日 Observed day	備　考 notes
1．コアホウドリ	*Diomedea immutabilis*	1/7 2/15（＊1）	
2．クロアシアホウドリ	*Diomedea nigripes*	1/26 2/4	
3．アカオネッタイチョウ	*Phaethon rubricauda*	1/18 - 2/6（＊1）	
4．カツオドリ	*Sula leucogaster*	2/15 17	
5．アカアシカツオドリ	*Sula sula*	11/21 11/29 - 30	幼鳥
6．コグンカンドリ	*Fregata ariel*	11/21 24 1/5 10 17（＊1）	
7．ワシタカ類	(A species of hawk)	11/19 - 21	
8．ムナグロ	*Pluvialis dominica*	毎日 everyday（＊2）	越冬
9．キョウジョシギ	*Arenaria interpres*	2/10 - 18	
10．メリケンキアシシギ	*Tringa incana*	毎日 everyday（＊2）	越冬
11．ハリモモチュウシャク	*Numenius tahitiensis*	1/18	
12．セグロカモメ	*Larus argentatus*	12/27 - 30	幼鳥
13．シロカモメ	*Larus hyperboreus*	12/29	成鳥
14．オオアジサシ	*Sterna bergii*	12/20 - 1/3 1/10 - 15 27 2/3 13	冬羽
15．セグロアジサシ	*Sterna fuscata*	12/29 - 2/18（＊1）	
16．クロアジサシ	*Anous stolidus*	2/15 - 18（＊1）	
17．コミミズク	*Asio flammeus*	12/31 1/5 17	定住 stay
18．メジロ	*Zosterops japonica*	毎日 everyday（＊2）	移入 introduced

（＊1）ほかの日にもそれらしい鳥が観察された．
On another day, a bird like this species was also seen.
（＊2）観察していない日もあるが，筆者が滞在中はずっと生息していたと考えられる．
There were some days I could not observe the bird.

アカアシカツオドリ

11月に2回，1羽ずつ観察された．11月21日に観察された1羽はリーフ外縁の岩にとまっていた．背や雨覆いに褐色の羽毛が目立ち，若い個体と考えられる．

別の1羽は，11月29日から30日にかけて，同島に年2回くる気象庁補給船（沖数百mに停泊）のマストで夜を明かした（この夜筆者も同船上に泊まっていた）．後頸から背にかけては褐色，風切り羽はやや濃い褐色で雨覆いは薄い褐色だったので，上記のものよりさらに若い個体と思われる．明け方飛び去った．

コグンカンドリ

11月と1月に，あわせて5回観察された．このうち，11月21日に観察されたのは幼鳥3羽の群れで，これらは，はばたきと帆翔を交えて同島の南西端沖にゆっくり飛び去った．このほかは単独または2羽（年齢や性別は不明）で，1月に観察されたものは，夕方南岸沖で群飛していたセグロアジサシの近くで，はばたきと帆翔を交え，時に反転もして巧みに飛んでいた．

ムナグロ

同島において越冬．海岸や草地，滑走路など様々な場所でみられ，単独または数羽の群れで観察された．生息する密度や生息環境の面積から考えて，50羽程度いたと推測される．2月中旬頃から胸にわずかに黒い羽毛の混じった個体がみられるようになった．

キョウジョシギ

2月10日から同18日（筆者が離島）までの毎日，1羽だけ観察された．それ以前にずっと見のがしていたとは考えにくく，越冬はしていないと思われる．滑走路周辺の草地にいて，よく石をひっくり返しながら採食していた．ムナグロと行動をともにしていることもあったが，時々追われてもいた．

メリケンキアシシギ

同島において越冬．海岸やリーフ外縁の岩場でよくみられ，波を巧みに避けながら採食していた．岩場にいる節足動物をおもに捕食していたが，時々小さな魚を捕食するのも観察された．飛ぶ時には「ピピピピピピ…」と鳴いていた．海岸近くの植生のあるところにも時々出現し，夜はその周辺で休んでいると思われる．単独または2～3羽の小群で観察され，その頻度と生息環境の広さから考えると，同島で越冬していたのは多くても5～6羽程度と推測される．

ハリモモチュウシャク

1月18日に1羽観察された．「ピウピー」という澄んだ力強い声で鳴きながら海岸付近を歩いていた．翌19日も声が聞かれ，さらに翌20日には，ほかの職員がそれらしい鳥をみたというが，それ以外の日には観察されていないので，同島では通過しただけである．

セグロカモメ

12月27日～30日に幼鳥1羽が観察された．1月14日に幼鳥1羽の死体をみつけた．低気圧や季節風にまきこまれて飛来したと思われる．

シロカモメ

12月29日に1羽観察された．油のようなもので汚れており，かなり衰弱していた．12月31日に，この個体と思われる鳥が衰弱死しているのを自衛隊員がみたというが，筆者は確認できなかった．前種と同様に，低気圧や季節風にまきこまれて飛来したと思われる．

オオアジサシ

12月20日から2月13日のあいだに，いずれも冬羽の1羽がしばしば観察された．比較的岸近くを海岸と平行に飛びながら獲物を探索していることが多く，時々ダイビングしては小魚を捕食していた．砂浜やリーフ外縁の岩におりて休んでいるのをみることもあった．

セグロアジサシ

11月頃に夜間には海岸ぞいで声を聞くことがあった．12月下旬から夕方南岸沖に小さな群れがみられるようになり，日増しにその群れは大きくなって，岸からの距離も近くなってきた．実際にそれが本種であると確実に識別できるようになったのは1月10日で，その後も群れは大きくなり続けた．1月下旬には2000羽ほどが毎日午後2時頃から夕方にかけて南岸沖を飛ぶようになり，まれに島上空にも飛来するようになった．2月になると午前中でも比較的岸近くの海上を飛ぶようになった．夜間は海岸のどこかに降りていると思われるが，飛びながら「エウェウェ」という甲高い声で鳴いているのをよく聞いた．しかし，日の出の30分くらい前にはすでに群れは海岸付近にはいなかった．

クロアジサシ

2月中旬から数十羽の群れが朝夕沖合いにみられ，順光では頭部の白がよく目立った．11月24日にも本種である可能性が高い一群が観察された．

コミミズク

数年前に飛来し，現在までいるという．夕方から夜に活動し，人のすぐ頭上にまで飛来することがある．12月のある夕方（日時は不詳），それらしい鳥影を同時に2羽みたので，2羽いた可能性が高い．日中は林でじっとしており，1羽を撮影できた（1/5）．同島にはネズミが多いので，本種が住み

ついたと考えられる．声は聞かなかった．

メジロ

硫黄島から人為的に持ちこまれたという．本土のものに比べると若干小型のようにみえたが，ほかには特に目立った特徴はない．数は比較的多く，ココヤシやパパイヤ等の花，パパイヤの実によくきていた．1月になると梢でさえずるものをよくみるようになった．

ワシタカ類1種

11月19日～21日に1羽観察された．ハチクマに似ていたが腰がはっきり白かった．

過去数次にわたって同島に滞在した複数の職員の情報によると，セグロアジサシは多数，クロアジサシはそれより少ないものの，かなりの数が3月頃から繁殖している．アカオネッタイチョウは繁殖はしているが，全部で10羽程度という．フクロウ類（種は不明）は10年ほど前にも1羽いたが，それは一旦いなくなり，数年前からまたみるようになったという．ほかに，筆者は確認していないが放鳥されたキジ（種は不明）がごく少数いるという．また春と秋には黒っぽいカモ（種は不明）とツバメ（科・種は不明）が飛来するらしい．

おわりに

南鳥島の現状について若干のべておきたい．同島は絶海の孤島ではあるが，人為的撹乱が大きく，自然環境は多大な影響を受けている．まず植生は，本来はココヤシがきわめて優勢であったが太平洋戦争中に伐採され，現在はその後に移入されるなどしたもので構成されているという．一方リーフ内側の珊瑚は人によって持ち去られたために壊滅状態である．島内には人が持ち込んで野生化したネコがおり，在来の鳥類（特にヒナ）が捕食されることがあるという．かつてはアホウドリ類も多数いたというが，人に捕獲されて絶滅し，今では時々飛来するのみである．また粗大ゴミも含めて廃棄物はほとんどすべて現地で処分するため，現在ではそれらが大量に野積みになっており，将来もゴミは増え続けることであろう．

このように島の環境は悪化の一途をたどってきており，今後も不安な要素が多い．しかも現在のところ「自然公園法」や「鳥獣保護法」による保全策は何らとられておらず，このまま放置しておけば，島の環境は将来さらに悪化し続けることであろう．

謝　辞

この報告に先立ち，種の判定について適切な助言をいただいた日本野鳥の会研究センターの皆さまにあつくお礼申し上げる．

引用文献

日本鳥学会．1974．日本鳥類目録 第5版．学習研究社，東京．

清棲幸保．1975．日本産鳥類大図鑑Ⅱ 増補改訂版．講談社，東京．

The bird species observed in Minamitori-shima (Marcus Is.)

Kyouiti Kawahara [1]

I observed 18 species of birds, including a few vagrants, during three months (18 November 1992 - 18 February 1993), on Minamitori-shima (Marcus Is.) as an aerological researcher for the Japan Meteorological Agency. Generally, the Island's environmental condition is deteriorating. Waste is disposed of on the Island, and is increasing. Coral in the Island's lagoon has been taken by people. Introduced cats have killed some young of terns and tropic birds. There have been no laws protecting the Island's natural environment.

1. Saiwaityou-syukusya 6 - 2, Saiwaityou 1 - 3, Nemuro-si, Hokkaido 087